

令和2年度小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会

日時	令和2年11月13日（金） 13時30分～15時10分
場所	小牧市役所本庁舎 6階 601会議室
出席者	<p>山下 史守朗（小牧市長）</p> <p>【委員】（名簿順）</p> <p>名和 千博 小牧商工会議所 松浦 秀生 東春信用金庫 水野 有香 愛知大学 伊藤 博美 椋山女学園大学《座長》 荒谷 善紀 中部ケーブルネットワーク株式会社 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会 坪井 俊和 大城児童館</p> <p>【地方創生アドバイザー】</p> <p>西村 健 日本公共利益研究所</p> <p>【事務局】</p> <p>山田 祥之 市長公室長 小川 真治 市長公室 秘書政策課長 安藤 誠 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長 倉田 和典 市長公室 秘書政策課 市政戦略係 主査 赤堀 真耶 市長公室 秘書政策課 市政戦略係 主査</p> <p>【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員会委員】</p> <p>駒瀬 勝利 市長公室次長 竹内 隆正 地域活性化営業部次長 林 浩之 市民生活部次長 江口 幸全 健康生きがい支え合い推進部次長 櫻井 克匡 こども未来部次長 石川 徹 教育委員会事務局次長</p>
傍聴者	4名
配付資料	<p>資料1 委員名簿・配席表</p> <p>資料2-1 「新しい時代の流れを力にする」に関連する小牧市の取組みについて Society5.0 デジタル技術の活用</p> <p>資料2-2 「多様な人材の活躍を推進する」に関連する小牧市の取組みについて 高齢者活躍、多文化共生</p> <p>参考資料 第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略（概要版）</p>

主 な 内 容	
山下市長	<p>皆さん、こんにちは。</p> <p>本日は、令和2年度小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会ということでお集まりをいただきました。日頃は、本市の地方創生に対しましてそれぞれのお立場からご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。</p> <p>昨年度、皆様のご協力をいただきまして作成させていただきました第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略について、今年度、初年度としてスタートをしているところであります。</p> <p>将来の推計人口につきまして、現在の総人口は人口減少対策に取り組んだ内容よりも良好な状態で推移をしているところであります。第1期、第2期と、今、進めているところでありますけれども、多少なりとも皆さんとともに取り組んできた本市の施策の成果が表れているのではないかとこのように考えたいところであります。</p>

	<p>現状、もちろん各種施策の効果もあると思っっているんですけども、主たる要因というのが、そう言っいいのかわかりませんが、特に特徴として外国人の人口が本市においては継続的に増加をしている、こういったことも総人口の状況に大きな影響があるのではないかと思っっております。</p> <p>しかしながら、この外国人の人口につきましても、令和2年5月を境に減少傾向に転じているところでもあります。これは新型コロナウイルス感染症の影響も多分にあると思っますし、今後も非常に不透明な状況でありますから、こういった大きな変化も今後大きな、このまち・ひと・しごと創生にも、新型コロナウイルスを含めて影響があるだろうと思っっております。ただ、そういう状況を踏まえて、今後も継続的な取組を行っっていく必要があると思っっておりますし、必要に応じて新たな視点を取り入れながら進めていく必要があるものと思っっております。</p> <p>そこで、本日の議題であります、第2期総合戦略から新たに追加をいたしました、「新しい時代の流れを力にする」、「多様な人材の活躍を推進する」という2つの新たな視点に関連をして、現在本市が取り組んでいる事業・施策を中心にご報告をさせていただければと思っっております。</p> <p>第2期総合戦略を推進するに当たりまして、このあたりも非常に重要でありまして、本日も委員の皆様方から忌憚のないご意見を頂戴したいというふうに思っっております。ぜひとも活発なご発言をいただい、有意義な会議にさせていただきたいと思っしておりますので、よろしくお願い申し上げまして、冒頭の挨拶とさせていただきたいと思っます。よろしくお願いいたします。</p>
伊藤座長	<p>皆さん、こんにちは。</p> <p>今年度、新しい段階に小牧市が入るという思いで新年度を迎えると思っいたらコロナのことがありまして、非常に心配をしながら過ごしてきたわけですけども、そういう中で、いろいろ、コロナの対応というところでは各自自治体の対策であったりとか防止策であったりとかといったところが、非常にローカルな力というのが発信できたのではないかなと思っいて、もちろん大変な時期ではあるんですけども、ローカルな力というのが発揮されたという意味では、潜在的な力が顕在化されたというふうには見ることができたのではないかなというふうに思っています。</p> <p>経済状況としてはまだまだ楽観視のできない、これからもっと悪化するかもしれないという危惧を持ちながらいますが、一方で、オンラインというところでコミュニケーションを図りながら、新しい力というのも出てきているというふうに感じています。</p> <p>今日、恐らくアドバイザーの西村さんからいろいろなお話を伺えると思っますが、ぜひ、小牧の新しい段階に新しい話題がどんどん入ってきてもらっ、いい話を皆さんからお聞きできればと思っています。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日は、本市の地方創生の実現を図るための内部組織であります、小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員会の委員も出席させていただいておりますが、新型コロナウイルス感染症対策により、本日の議題の関係部の委員のみの出席といたしておりますので、あらかじめご了承をお願いいたします。</p> <p>今年度は、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間の初年度ということもありますので、第2期戦略の特色でもあります2つの横断的視点に関する本市の取組状況につきましても、有識者の皆様方からご意見を頂こうとするものであります。</p>

	<p>それでは、議事に入らせていただきますが、以後の司会進行は座長にお願いいたします。伊藤座長、よろしくお願いいたします。</p>
伊藤座長	<p>それでは、議題に入ります。</p> <p>議題、新たに追加した2つの横断的視点に関連する小牧市の取組について、まずは①「新しい時代の流れを力にする」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>はい、それでは、事務局、秘書政策課の安藤です。よろしくお願いいたします。</p> <p>資料2-1で、1つ目の議題、「新しい時代の流れを力にする」に関しまして、説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>Society5.0「デジタル技術の活用」に関連する5つの事業をここでは紹介させていただきます。</p> <p>1ページの1つ目ですが、まず、基本目標1、産業・経済の発展に関連した事業といたしまして、市内キャッシュレス決済の導入促進を行っております。</p> <p>ア) こまき応援キャッシュレス決済です。こちらは、地域経済の活性化を図るため、PayPay、auPAYと連携して、市内対象店舗でキャッシュレス決済にて買い物をした際に10%のポイント還元を、10月の1か月間実施いたしました。参加いただいた店舗数ですが、PayPayが約700店舗、auPAYが約300店舗でありました。ちょうど10月末で事業が終わったところですので、現在、事業効果を検証し、今後の市内商工振興施策の参考としていきたいと考えております。</p> <p>続きまして、ページの下にあります、イ) 商業振興検討業務になります。こちらは、名鉄小牧駅を中心に半径2キロメートルの範囲にある支払行為の発生する可能性のある施設、約1,400事業所にキャッシュレス導入状況等のアンケート調査を行い、市内のキャッシュレスの導入状況について検証を行おうとするものであります。現在は、郵送調査の未回収事業者に対する電話・訪問調査を行っているところです。</p> <p>それでは、2ページをお願いいたします。</p> <p>こちらは基本目標3、都市の活力と暮らしの安心に関連した事業といたしまして、②バーチャルスポーツへの取組について紹介させていただきます。</p> <p>ア) バーチャル小牧シティマラソンです。小牧市では、例年1月にスポーツ公園パークアリーナ小牧を発着点にしました、およそ6,000人が参加するマラソン大会を行っておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から大会開催を見送ったところでありました。しかしながら、こうしたコロナ禍におきましても、市民の健康維持・増進やスポーツに取り組むきっかけを提供するため、今回、スマートフォンアプリ、TATTAを活用したバーチャルマラソン大会を開催することにいたしました。</p> <p>現在はエントリー期間中で、大会の期間としましては、年明け1月14日から24日まで予定しております。対象者は、市内在住・在勤・在学中の方になり、定員は500名としております。こちらのバーチャルマラソンの完走者には、通常のシティマラソンのコースをWeb上でたどることができるフィニッシャー専用のムービーを提供することとしております。</p> <p>なお、このバーチャルマラソンにつきましては、実際のマラソンのようにタイムを競い合うというようなことはありませんので、新たに参加の目的や意義を生み出すような工夫が必要というような課題があると考えております。</p> <p>次に、3ページをお願いいたします。</p>

イ) ウォーキングアプリ a l k o です。こちらの a l k o につきましては、小牧市が平成28年度から実施している健康いきいきポイント事業の一環として、市が独自に開発したスマートフォン専用のウォーキングアプリとなっております。ウォーキングを楽しく長く続けて習慣にしてもらうために、歩数だけではなく消費カロリーやランキング表示など様々な機能を搭載しており、アプリ内で様々なチャレンジも実施しているところです。

今年度は新型コロナウイルス感染症により外出自粛が続いておりますので、活動量の低下が心配されたこともあり、例年より早いペースでチャレンジを実施し、自主的な健康づくりを後押ししているところです。

そのような状況でもありますので、今年度は例年よりもアプリのダウンロード者数は増加しているところですが、事業所の登録数は少ない状況が続いておりますので、今後、事業所への利活用の働きかけが課題と考えているところです。

4 ページをお願いいたします。

基本目標 3、暮らしの安心に関連した事業といたしまして、市民からのレポートシステムであるまちレポこまきについて紹介いたします。

こちらは、市民と行政の協働によるまちづくりを推進する新たな取組として、スマートフォンアプリの L I N E を使って、市の管理する道路や公園遊具などの不具合について市民の皆様から情報提供を受け付けるシステムとなっております。令和元年の7月から試行を実施して、本年8月より本格運用となっております。

こちらの情報提供の対象としましては、道路の陥没やガードレールの破損、街路灯公園遊具の不具合などになり、発見した市民の方はその画像と位置情報を市の公式 L I N E で送っていただいて、市としてはその頂いた情報をもとに所管課が現状確認を行い、必要に応じて関係組織等に連絡して対処することとしております。

L I N E のトーク機能を使うことで、365日24時間情報提供を受けることができるようになっております。

利用の状況であります。4 ページ左下の表にありますように、令和元年度は44件、今年度は10月1日時点ですが、50件の報告があり、順調に利用が増えているといったところです。また、内訳としましては、道路の不具合に関する報告が多くなっているところでもあります。

続きまして、5 ページをご覧ください。

基本目標 2、こども夢・チャレンジ N o . 1 都市の実現に関連した事業といたしまして、I C T 教育の推進を行っています。

教育環境の I C T 化の推進に向けて、全小中学校の普通教室、特別教室への無線 L A N の整備や、電子黒板機能付きのプロジェクター、実物投影機の配備、インターネットに接続可能なタブレット型パソコン、指導者用デジタル教科書等の各種ソフトウェア、プログラミング教材など、I o T 環境の整備に積極的に取り組んでいるところです。今年度につきましては、国の G I G A スクール構想を踏まえまして、高速大容量回線の接続ができるインターネット環境の整備、そして、児童生徒1人1台のタブレット端末の整備を進めているところです。

また、昨年10月に実施しました I C T 教育に関するアンケート調査でも、児童生徒からは I C T を活用した事業が分かりやすい、集中して取り組むことができるといった効果や、保護者からも I C T 教育に期待が寄せられている

	<p>というようなことが分かりました。</p> <p>また、小牧市では、平成31年2月に小牧市学校教育ICT推進計画を策定しており、時代を切り拓くこどもを育成するため、より一層ICTを活用した分かりやすい事業の実践に取り組んでいるところです。</p> <p>次に、6ページをお願いいたします。</p> <p>最後になりますが、基本目標2、こども夢・チャレンジNo.1都市の実現、そして基本目標4、小牧の魅力の発信と創造に関連した事業といたしまして、こまきこども未来館デジタルコンテンツの準備を行っているところです。</p> <p>こまきこども未来館につきましては、12月19日オープン予定で、学校や家庭では経験できない体験を通じてこどもたちに豊かな学びを提供していくために、最新のデジタル技術を活用したコンテンツの整備を進めているところです。</p> <p>デジタルコンテンツについては、中部大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学の3つの大学と連携協定を締結して、製作を委託しています。</p> <p>こまきこども未来館内の各所に、デジタル技術を使って双方向にやり取りすることができるインタラクティブコンテンツを導入し、観る、触れる、楽しむことから、動く、体験する、考える、学ぶなどの好奇心へつながる空間を作成しています。具体的には、壁面を活用したプロジェクションマッピングや、最新技術を使った映像と共に遊べるAR砂場、デジタルサイネージなどを活用した情報発信を予定しているところです。</p> <p>以上、簡単ではありますが、新たな視点の1つ目、「新しい時代の流れを力にする」のSociety5.0に関連する施策の説明とさせていただきます。よろしく申し上げます。</p>
伊藤 座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>議題の①「新しい時代の流れを力にする」で、Society5.0デジタル技術の活用について、小牧市の取組をご説明いただきました。ご意見やご質問があれば、発言をお願いいたします。</p> <p>水野委員、何か質問されていましたがね。</p>
水野 委員	<p>では、私から質問をさせていただきます。</p> <p>②のバーチャルスポーツのア) バーチャル小牧シティマラソンについてお伺いします。</p> <p>今回、コロナの影響で実施というのが難しい中で、完全な中止ではなくこのような形で開催できるというのはとても素晴らしいことだと感じております。</p> <p>今回、対象を小牧市在住・在勤・在学中の方に限っているというのは、多分コロナの影響を最小限にするというようなことではないかとは思いますが、もちろん、感染拡大防止という観点からですとこれが望ましいかと思いますが、せっかく開催するのであれば、市外から走りに来て遊んだり、観光したりしてもらい余地を残す方が有意義ではなかったか思いました。その点について、どのような議論があってこのような形になったのかを教えてください。</p>
まち・ひと・しごと創生推進委員会 江口 次長	<p>健康生きがい支え合い推進部次長の江口と申します。バーチャル小牧シティマラソンについてご意見をいただきましてありがとうございます。</p> <p>今おっしゃられたとおり、実際には、中止の発表自体は8月にさせていただきましたが、国等からロードレースのガイドライン等が示される中で、やはりどうしても参加者ですとか沿道での観戦者、あるいは運営に携わる関係者の方々の安全確保が非常に厳しいというところで中止という判断をさせていただきました。おっしゃられたとおり、とはいえ、何か変わった形がないか</p>

	<p>ということで、今回、このバーチャルシティマラソンという形で企画をさせていただきます。</p> <p>今回、初めての試みというところとコロナ禍というところで、今おっしゃられるとおりに、今回、市外の方については在勤ないし在学の方というふうで絞らせていただいたところです。言われるように、こうしたバーチャルマラソンなども通して小牧の魅力を伝える等、いろいろな発信の形もあるかなと思いますので、今後、本年度の参加者ですとかまたご意見を聞きながら、その辺のところは課題として認識しておりますので、随時改善していけるような形で進めていきたいというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p>
伊藤座長	よろしいですか。ほかはいかがでしょう。
名和委員	<p>関連で、いいですか。</p> <p>関連ということで質問させていただきたいんですが、今回、このバーチャルマラソン、エントリー費まで支払って参加する魅力というのは、どういったところにあるんでしょうか。</p>
まち・ひと・しごと創生推進委員会 江口次長	<p>今回、一応、参加料というところは、例年のシティマラソンとは異なり、今回はコロナ禍ということでスポーツマスクをお渡しすることを考えているところでありまして、今回のマラソンと違って競技性がないものですから、健康増進ですとか、あるいはスポーツに取り組むきっかけづくりというところで、今回は啓発をさせていただいているところでありまして、この魅力のところについては、今回の応募状況等を見ながら、この辺も意見を伺いながら、少しそういった魅力の発信という確保というところも、今後検討を深めていく必要があるかなというふうに考えているところでありまして、基本的に、今回の参加料については記念品と運営にかかる費用というところで、参加料をもらう形でセットさせていただいております。</p> <p>以上です。</p>
名和委員	参加料をいただいて、果たして多くの方に参加いただけるのかなという、その参加費の在り方について少々納得できない、私ならどうするだろうということをつい考えてしまうので、いかがでしょう。
まち・ひと・しごと創生推進委員会 江口次長	<p>そうですね、今、実際には定員500名を先着順で応募をかけさせていただいているんですが、おっしゃられるとおりにまだ200名に到達しないような状況でして、若干、やはり応募が少ないというところがあります。</p> <p>いろいろな要因が考えられるかなというところはあるんですが、このあたりをヒアリング等をして分析をかけていきながら検討していく必要があるかなというふうに考えております。</p> <p>現在は、確かに言われるように、実際の現実のマラソンをバーチャルのほうに置き換えてみたというところで、企画としては試みさせていただいたところになります。</p> <p>以上です。</p>
名和委員	ということは、まだまだ当日までこの流れというのは流動的であるよと、場合によっては参加料を無料にしてしまうこともあり得るよということなのではないでしょうか。
まち・ひと・しごと創生推進委員会 江口次長	今のところは、参加料につきましては、今、ここに書かせていただいたとおり、頂く形で進めさせていただきます。

名和委員	まあ、そのぐらいにしておきましょう。
山下市長	<p>まだ、この件については、今私も初めて報告をもらいましたけれども、まだ200人に届いていないということなので、努力が必要かなと思います。</p> <p>これはちょっと、あまり宣伝が行き届いていないかなという感じはしますよね。実は例年の小牧のシティマラソンは非常に人気で、ちょっと今は数字が出てこないんですが、6,000人とかそういう数なんですよね。北は北海道から南は九州まで小牧に来て参加いただける、小学生から上は90歳ぐらいの方まで参加いただけるということで、非常に人気なんです。</p> <p>もちろん、参加料はこれより高い参加料を通常は取っているということの中で、多分、初めてのこととは言いながら、そういった実情を踏まえての状況で、若干、来るんじゃないかなという甘さがあったかもしれないというふうには思うんですが、現状、今は200人に届いていないということで、私、あまり市民にやっていること自体が届いていないんじゃないかなという、ちょっとそこは初めてのことと言いながら宣伝不足もあるかなということを反省いたします。</p> <p>答弁というか、お答えのほうで担当からは改善しながらということだったんですけども、まずは、できれば来年というか次回、再来年ですけれども、次回は普通に開催できることをまずは願っていきいたいというのが率直な思いでして、ただ、こういったバーチャルな形での参加というもののメリットとかもいろいろと考えられるのではないかなとも思いますので、並行してこれは、もし次回はリアルでやれたとしても、こういう形も含めて色々工夫したり検討できるといいのかなというのは思っております。</p> <p>まあ、一度やってみるということですよ。うちのモットーは、失敗を恐れずにチャレンジするということを僕は言っているので、失敗してもいいと。普通だと失敗するのが怖いから、批判されるのが怖いから職員は新しいことにチャレンジしないということがあるんですけども、それではよくなりませんので、こういった、ちょっと応募が少ないねということがあったとしても、チャレンジしたことにはやはり一歩踏み出したと、僕はそこは評価されるべきではないかと、私が言うのもなんですけれども、うちはそう思って今やっていますので、チャレンジしていきいたいというふうに思っています。</p>
荒谷委員	中部ケーブルです。今、市長からもお話がありましたけれども、もし宣伝が行き届いていないのであれば、私ども地域番組で流させていただきますので。
事務局	ぜひ、取り上げてください。
荒谷委員	<p>よろしくお願ひします。</p> <p>このイメージがちょっとわからないんですが、このバーチャルマラソンというのは、ルームランナーというか、点在した施設にルームランナーを置いてあって、そこでマラソンをするような、そんなイメージなんですかね。</p>
まち・ひと・しごと創生推進委員会 江口次長	<p>走るのほどこを走っても、普段マラソンをやられている方は同じコースでいいんですが、どこかを走っていただいてという形になります。</p> <p>どこかに機材があるわけではなくて、ご自身で走られて、それをタイムカウントしていくという形になります。</p>
山下市長	これって、何でカウントしているの。GPSでカウントしているの。
まち・ひと・しごと創生推進委員会 江口次長	すみません、ちょっと詳細はあれですが、GPS等で把握をしながらだと。
山下市長	そんなようなのを聞いた気がします。はい。

荒谷委員	はい、わかりました。ありがとうございます。
山下市長	実際に走るということです。
伊藤座長	私から、よろしいでしょうか。 非常に面白い企画で、今、市長がおっしゃられたように、どちらかというとし外の方のほうが多い可能性もありますか、これまで。わざわざ来られて。これ、最後にフィニッシャー専用ムービーを提供してくださるんですね。
山下市長	これ、欲しい人はいると思うんですよ。
伊藤座長	そうなんです。これまで走った人とか、ああ、こうだったなと思い出しながら走りたいというか。だから、フィニッシャーで提供することはいいとして、完走したんだからというところのプレゼントという意味合いはいいと思うんですけども、動機づけとしては、むしろ、これは市内在住・在勤にかかわらず、それを取っ払った状態で、これまで小牧で走られた方も参加できて、ああ、こんなやつだったよね、こんなコースだったよねと思わせるほうがいいと思っているし、今、名和委員もおっしゃいましたけれども、やはり500円とか手数料とかを払うだけの見合うものが返ってくれば、しかもそれが県外、市外の人にとって小牧を思い出すようなものだったりすれば、これは払っても出ようかなと思うんじゃないかなと思うので、ちょっと範囲を広げていただいてもいいのかなという。それだけ空気がまだおありだそうなので、ちょっと広げていただければいかがかなと、今、聞いて思いました。
山下市長	これは、締切りというのはいもう延ばせないのかな。システム上延ばせないのか、もし延ばせるようだったら、今、座長がおっしゃるように、もうちょっと宣伝して募集した方がいいかもしれない。
まち・ひと・しごと創生推進委員会 江口次長	ちょっと対策をします。
山下市長	はい、頑張ってください。お願いします。
伊藤座長	ありがとうございます。ほか、いかがですか。はい、お願いします。
田中委員	すみません、このバーチャルマラソン、とてもいいなと思って、こういうのをやっているんだな、すごいなと思いました。 実は、今、私どもが関わらせていただいている高齢者のサロンですけれども、実は半年ぐらい中止をしている中で、本当に、転倒だとか体力が弱ってきたとか、意欲が低下したという声がものすごく聞かれているんです。 それで、やはりそういったところで言うと、高齢者でも関われるものということで、次のウォーキングアプリですね、a l k oの中でもバーチャルウォーキング大会というのがもう既にあるみたいなんです、なかなか、先ほど市長がおっしゃられたように、高齢者の方々までこういうものがあるというのが届いていないのと、それから、やはりスマートフォンを持っている人たちが少ないというところもあるので、何か、そういったところへ届けられるようなCMをしていきながらぜひ取り組んでいただければ、結構興味を持たれる方が多いかなという感じがするので、その辺も1つ付け加えながらお願いしたいなと思います。 以上です。
伊藤座長	これについて、いかがですか。
まち・ひと・しごと創生推進委員会 江口次長	ありがとうございます。 シティマラソンと併せまして、ウォーキングアプリ a l k o でございます。もともと a l k o は、特に働き世代でなかなか運動の機会のない方をまずタ

	<p>ーゲットにしていこうというところで踏み込んで入ったところでございます。</p> <p>ただ、今、田中委員が言われましたように、やはり高齢者の方にも活用いただけるような方策も必要かなというふうには思っておりますので、そのあたりはもう少し啓発なり使い方というところで周知に努めていきたいというふうに思っております。</p> <p>以上です。</p>
山下市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>本当に今、周りの方を見ても、本当に足腰が弱っている方が多いし、認知症も進んでしまっているしということで、コロナの感染も怖いけれども、本当にそれ以外の疾病の悪化だとか予防についても考えなければいけないし、本当に大変な状況だと。これは、ちょっとバランスをもって行かないといけないなと感じます。</p> <p>これは、バーチャルウォーキング大会もやっているこのウォーキングアプリ a l k o もそうですしバーチャルマラソンもそうなんですけれども、やはりこれは、ご指摘いただいているように届いていない。本当に。</p> <p>何年か、実は a l k o はやっているんですけれども、まだまだ実は浸透していない、知らないという人が多いので、ケーブルテレビさんお願いします、ちょっと一度特集を組んで。ケーブルテレビを見ている人は高齢者が多いですからね、ぜひ、何か特集を組んでくれると。</p> <p>これは、実際に、私もけれども、バーチャルシティマラソンって仕組みがわからないですよ。本当に、今、ぱっと説明して、我々はイメージがあるから、もう知っているから入ってくる部分もあるし、一般の方は見て、何、その家でルームランナーで走っているのとか、本当に、今の話、足踏みしているのとか、本当に走るのとか、全くイメージがわからない人が多いと思うので、ちょっと一歩踏み出せない人もいると思うので、もうちょっとかみ砕いて、何かこう、女性のキャスターの方がやるとか、特集を組んでもらえると非常に伝わるんじゃないかと思ったので、ぜひお願いします。こんなところでお願いしてはあれですが、そうしてくれると嬉しいなというふうに思いました。お願いします。</p>
西村地方創生アドバイザー	<p>よろしいですか。</p> <p>デジタル技術は僕の専門なので言い過ぎるのも何ですけれども、まず、先ほどのこのバーチャルシティマラソンですか、これは非常におっしゃるとおりですし、ちょっと僕としては3点ほど言いたいことがあって、1つが、マラソン大会に参加されたことのある方って何人かいらっしゃいますか。委員からお2人、参加して、何か、結局自分の知り合い以外の人とは何か交流する機会ってあまりないじゃないですか。なので何か、婚活の話ではないですけども、出会いの場、せっかくSNSとかもあるし、今回は特殊じゃないですか。ということ考えると、何らか、出会いの場になるように、出会いであったり交流に、ちょっと声をかける勇気を出せば、その企画のための実験版みたいな形として捉えてもいいのではないかなというのが1つです。今回はある意味実験版になるし、失敗も許すという、市長からすばらしい人材育成のこともありましたので、そこがいいかなと思っています。</p> <p>その中で、何かVRとか、僕もVRのヘッドセットを毎週つけて頭がくらくらになっているんですけれども、ああいうものでやってみるとどうかなとか、何か、今後の発展を考えてそれがいいんじゃないかなというふうに思ってい</p>

ます。

もう1点目が、ウォーキングアプリの話なんですけれども、これは、僕はちょっとすばらしいし、存在は知っていましたが、これだけ効果が上がっているのは知らなかったんですけれども、つまり、こういうアプリの人って、どこまで知っている、歩数と生活習慣病における死亡者数って、人口10万人あたりがあるんですね。8,000歩いくと人口10万人比で500人以下になるわけです。そういう相関係数が、多分ご存じだと思いますけれども、そういう指標とかがぼこっと出てきたりとか、だから何か歩いていますよだけではなくて、歩いて先に何かあるのかとか、8,000歩歩いていると今後安心だよとかというところを見せるようなものをちょっと入れておくといいんじゃないかなという。システム改修はお金がかかるので大変だと思いますが、それが1つです。

あと、最後の3点目は、このキャッシュレス決済の話は、言いにくいんですけども、僕もちょっと行政改革課のほうに情報としては提供している部分があるんですけども、税金の支払いだったりとか、四条畷市とかだということやっていたりするので、そういう情報とかをつかんでやってほしいんですけども、この商業振興検討業務、キャッシュレス導入状況のアンケート調査を郵送しと書いてあるので、こういうところから、本当はインターネットで簡単にできてしまうわけですよ。なので、皆さん、コロナもあるし、これからアンケートを書いて、送って、まだですかとやっていたらすごく時間がかかるわけなので、今度は率先して市長公室がやられると、それがデフォルトになって、ほかの方も、ああ、アンケートはオンラインでいいのかみたいになるので、そうすると、そのときに、今回のLINEのものとかイベントとか宣伝が出せるじゃないですか。なので、それをしていただけたらいいかなと思います。

それとすみません、4点目に、最後になるんですけども、これは、すごく頑張っているんですけども、僕が見ていてもすごい、びっくりするほど。ウォーキングアプリもそうだし、バーチャルシティマラソンも、まずマラソンを中止しないというところがすごいし、こまきこども未来館なんて本当に子育ての、この地方創生のところにすごくいいところになると思うんです。それで、市役所の人もすごくそれでモチベーションが上がっているんだと思います。

ですけども、このまちレポこまきで市民から、僕、ちょっとさっき自分でやろうとしたんです。自分でやろうとしたんですけども、これ、やった人への何か、モチベーションとか、何かその辺の設計とかをより、こういう人たちを巻き込む仕組み、こういう地方創生のいろいろなものであったり、コンシェルジュじゃなくて、何でしたっけ、ありましたよね。何か、ほかの市役所で何か扱うそういう人を、名誉職みたいなものをあげたりとかして、何かやっていた人のモチベーションを上げるような何かをやっていただけたらいいんじゃないかなと。

あとは、1個、イメージ。西村さんがこれを送った、安藤さんがこれを見た、ここに伝えた、これぐらい改善効果があるからより、ぜひ、皆さんもみたいな、そういうふうに考えてやっていただけたら非常にいい回転が生まれるのかなという、そんな、何かのスタートラインに立っている感じなので。

何か、すごく話が長くなりましたけれども、はい。僕のほうからは、僭越ですがそんな感じでございます。

伊藤座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>このまちレポこまき、とても面白いと私も思っていて、ただ、この現状出ているものが、情報提供の対象がすごく限定されているということで、多分、モチベーションなんかをつけるとあら探しになってしまうたら大変だなというのを思っている。というのは、表の中に経過観察がありますよね。44件あって14件が経過観察となっているのが少し気になっていて、これはどういう状況か、もしご説明いただけるのだったら教えてください。</p>
<p>まち・ひと・しごと 創生推進委員会 駒瀬次長</p>	<p>市長公室次長の駒瀬といいます。よろしくお願いします。</p> <p>今、まちレポこまきの関係で、経過観察についてどうなっているかというようなお尋ねをいただきました。</p> <p>すみません、経過観察のものがどうなっているかというのは資料を持ち合わせておりませんので、現場を確認して、応急的に修繕をする、そこに至らないものだと思いますが、一度そこは確認をしておきます。</p> <p>実は、先ほど説明もあったかもしれませんが、今年度の8月からですけれども、道路のほか、ガードレールとか街路灯の不具合、公園遊具の不具合などにも広げております。これは、徐々に状況を見ながら対象のものを広げて、市民にもご協力をいただきながらまちの改善に努めていきたいというような仕組みになっております。</p> <p>積極的なPRをしていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いします。</p>
伊藤座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>もっと人口減少がすごいと、見つけて自分たちで直してしまうというようなところまで来ているような村もあつたりしますけれども、小牧市の場合は幸いそういうことはなくて、お伝えすれば検討してくださることなので、やはり広いですしね、こういう住民の方からレポートされるというのはすごく。</p> <p>ただ、問題は、それがちゃんとフィードバックされているかどうかで、経過観察になったとしても、ちゃんとこういう状況で見させていただきましたということで、しばらく様子を見ますということは返してあげてもいいのかなと思ったので、ちょっとお答えいただきました。</p>
<p>まち・ひと・しごと 創生推進委員会 駒瀬次長</p>	<p>一応、頂いた声に対してどのような対応をしたというのは、市のホームページに出させていただくと。その中で経過観察というものもそのまま出させていただくというような形です。</p> <p>また、実はこれ以外の声も寄せられることがあります。まちレポこまきでは対応できないんですけれども、そういうものについても所管部署に一度お話をし、所管部署から対応をしていただくというような形になっております。</p>
伊藤座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>LINEですぐ発信できるって送る側としてはすごく楽な手段ですし、写真と位置情報さえきちんとクリアできれば、誰でも出せるので、もっと範囲を広げていただくと面白い展開になっていくかなと思います。</p> <p>ほか、いかがでしょうか。</p>
松浦委員	<p>1ページ目のキャッシュレスの件なんですけれども、10月の1か月間でキャッシュレス決済の、実際やられたものを検証中だということなんですけれども、イの小牧駅を中心に半径2キロメートルで調査というのは、まず、小牧駅界隈に絞ったのはなぜかなということで、例えば、小牧市内で商業施設が集まっているところは他にも点在するんですけれども、これでキャッシュレ</p>

	<p>スの導入状況を、例えば現実がわかって、どういうふうに向かうか、うまく利用するというか、今度は集めたデータからどのような方向で得られるのかということにしたいということと、先ほどからいろいろな、シティマラソンの件だとかウォーキングアプリも、やはり高齢者の方とかが一番地元でお金を使ったりモノを買ったりという方が対象としては多いので、高齢者の方も使いやすいような仕組み作りとか、もしくは年代別とか同じ方が何回も使っているとかいうところを分析されるとより広がるのではないかとこのふうには思いましたので、今後、このアンケートを実施してどのような方向へ生かしていくかというような方向性がもしございましたら、教えてください。</p>
<p>まち・ひと・しごと 創生推進委員会 竹内次長</p>	<p>すみません、地域活性化営業部の竹内と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>お尋ねの件で、キャッシュレス決済ないしは商業振興検討業務の件でございますけれども、もともと、小牧市で独自に進めてまいりましたいわゆるプレミアム商品券事業というのはご存じかなと思っておりますけれども、時代の流れの中で、やはり電子化とか、いろいろな外的な環境が変わってきておまして、今後の小牧市内の商業振興をどう進めていったらいいんだろうかという1つの方向性も検討すべき時期に来ているのではないかとこのことを前提に、まず小牧駅に絞ったというのは、一般的に中心市街地にそういう多業種が、これは今回お店だけではなくて、例えばお医者さんとかそういうところもみんな、いわゆるキャッシュを何かしら決済するところを、すべからずお店というだけではなくて、いろいろなところに範囲を広げながらということで、駅を中心とした一般的な中心地においてどのような現状があるかということ、聞き取り調査も含めて、先ほどのアンケートの結果でネット云々ということもご意見、ご指摘があったと思うんですけれども、やはり現状を把握するためにサンプリング調査を1つでもたくさん進めるために、ネットの回答でいただくのもいいかとは思いますが、そのあたりをより綿密にサンプリングを集めるために、個別に回答をいただいているところは今一度お邪魔させていただいてやろうということですのでずっと進めているんですけれども、ただ、今はコロナの影響で少し業務期間が延びそうですので、今は契約の延長をかけて対応している最中です。</p> <p>ただ、いずれにしても、その現状等を把握した上で今後どのように進めていくかということは市として全体として検討していきたいというふうにご考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>松浦委員</p>	<p>我々は金融機関でございますので、やはり、現金の流通がどんどん減っております。ATMコーナーが撤退する金融機関が出たとか、キャッシュコーナーの利用客が本当に減っております。このキャッシュレスへのスピード感というのを、本当にスピード感があるというふうにご受け止めております。</p> <p>店舗縮小だとか窓口縮小だとかというふうにごやっておりますので、この今の小牧駅界隈のそういったキャッシュレスの実際の現実がどのようなものであるかというのを、我々としてもすごく興味がございまして知りたいと思っております。</p>
<p>伊藤座長</p>	<p>このあたり名和委員、何か、商工会議所とかは何か、感触とかありますか。</p>
<p>名和委員</p>	<p>特に、このPay Payのそういうものに関しては何もないんですけれども、今、商工会議所が一番意識しているのが地域商品券ということですね。小牧市が今回30%という、非常にプレミアム感がありますので、まずはそちらの方に頭も目も行っているということでございます。</p>

伊藤座長	<p>ほかはいかがでしょうか。</p> <p>私のほうから、④のICT教育の推進ということで、もともと小牧は非常に先進的に取り組んでおられる部分で、今回、コロナ禍だったということでもかなりメリットも感じられていたのかなどということと、あと、子供さんたちの様子はどうだったのかなどということを知りたいと思っていますので、坪井委員、お子さんとかを見ていて何か、印象とかはいかがですか。</p>
坪井委員	<p>そうですね、子供たちは、やはり群れて遊んでいますね。当然、いろいろ指導はしますが、やはり楽しく遊んでいます。</p> <p>楽しみ方を見つけるのがうまいというところは感じておりますが、ただ、ママたちはいろいろストレスがたまるところが非常に、児童館でも言われますね。やはり、家にこもっている形での子育てはかなりつらかったということは、この2か月ぐらい児童館を閉めていて、始まったときによく言われました。</p> <p>それと、うちの町だと、他市の方の利用も多かったですけども、今はもう他市の方は制限してありますので、同じように使えるのはいつだろうねなどという話は言われますが、なかなか答えられないです。</p> <p>あとは、ICT、児童館内にも幾つかリモートの形を取り入れながら、基本的にはやはり対面的な部分が多いので、いろいろな講座などは工夫しながらやっています。当然人数制限も設けることや、ただ、いろいろな体験もこういう中でもしていかなければいけないねということで、やはり衛生上には、当然消毒などにも気をつけながら、利用者にも時間制限もしてもらいつつ、一緒になって子育てしていこうねということもあります。</p> <p>あとは、前回も少し報告した中で言うと、子供たちが家庭環境の中で、やはり双子だとか多胎児児童が非常に増えている傾向がありますので、うちの児童館で3組が揃うなどということも起こることがあるほどになってきていますので、これは何か全国的な傾向もあるのではないかという分析も聞いたりします。</p> <p>それと、いろいろな悩みを抱えて子育てをやっていかれるので、普遍的な部分をずっと支えていくのは、やはりそういう連携や体制が必要だというのは、大分小牧の整備ができてきているので、他市の方からは羨ましがられるというような話はよく聞いております。</p> <p>以上です。</p>
伊藤座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今日、教育委員会事務局次長も出ておられる。状況とかをもしお聞かせいただければ。</p>
まち・ひと・しごと創生推進委員会 石川次長	<p>教育委員会事務局の次長の石川でございます。よろしく申し上げます。</p> <p>今、ICTの関係ですけども、国のGIGAスクール構想が昨年の12月に示されまして、こういうコロナ禍になったということで、本市の市長はチャレンジ精神が旺盛でございますので、当初は令和5年度までに配備されるという予定だったんですけども、それを大幅に前倒ししまして、本年度4月から令和2年度中に配備するというところでやっております。</p> <p>現状といたしましては、中学生が11月中に配備されるということでございまして、小学校が令和3年、年が明けて1月中に配備されるということなんですけれども、小学校が今回8,487台、中学校に3,082台ということで、昨年度、小学校2校、中学校2校をモデル校として既に配備されている分が1,241台ありまして、合計が1万2,810台ありますので、それが今年度中に小学校1年生</p>

	<p>から中学校3年生まで、全児童生徒に1台配備されるという状況でございます。 以上です。</p>
伊藤座長	<p>ありがとうございます。 せっかく、今回、このオンライン活用という形になって、特に言われているのが不登校児童生徒に対して参加しやすくなったという、そういうメリットが出ていますので、ぜひご活用いただきたいということと、欲を言うと、外国人が非常に増えている、少し減ったというふうにおっしゃいましたけれども、やはりそちらに対するサポートとしても、デジタルの技術を使えば翻訳ソフトであったりサイトであったりとかがあるので、その辺の活用なども学校現場でしていただくと、より子供たちの学習が進むのではないかと考えているので、期待をしたいところです。 私からはそういったところですが、ほか、いかがでしょうか。この最初の議題は。</p>
名和委員	<p>最後についておりますこども未来館、内容につきまして、これは非常に私自身も興味があるんですね。 先日、私、東京の豊洲のチームラボが運営している非常に有名なところを体験してきましたですけども、非常に感動した記憶があるんですね。ぜひ、そういったものを、お母さん方も相当こまきこども未来館には期待しておられるようですので、ぜひこの展開というのをここだけに終わらせず広げていただきたい。 というのは、近くに、市長悲願の図書館もオープンされるわけですよ。あれだけ苦労されて作られる図書館への動線ですとか、そういったものにもやはり広げていっていただきたいというふうに思っています。 というのは、先日、中心市街地の話が別の席でありましたけれども、やはりあの辺の活性化を担う、ここは1つのコアになると思っております。子供たちに話題が広がれば、より多くの人へ広がっていくというふうにも思っておりますので、ぜひ、中心市街地の活性化にもつながることですので、こういった動きを図書館や何かへの動線につなげていっていただきたいなという、これは要望という形で捉えていただければ結構です。</p>
伊藤座長	<p>これについて、いかがですか。</p>
まち・ひと・しごと創生推進委員会 石川次長	<p>念願の図書館ということでございますけれども、3月末にスタートすることということでございますので、12月にこども未来館がオープンしますので、そこと連携を取りながらということをおっしゃいます。 それから、今、本当に出来上がりつつある中で、夜などに歩きますと、明かりがつくと中が少し見えて、吹き抜けのすごくいい景色が見えているような状況であります。囲いも取れて、駅前がにぎわうなということをおっしゃいますので、その辺、しっかりとオープンに向けて、小牧にぎわい隊の皆さんもご協力いただけるような、そういうオープニングの話も伺っているような状況でございますので、賑わいに寄与していきたいと思っております。 以上です。</p>
伊藤座長	<p>山下市長どうぞ。</p>
山下市長	<p>今、いろいろとお話いただきました。未来館については、今、図書館との連携という話がありましたが、今、ペDESTリアンデッキの改修もやっていますし、歩専1号のほうも、それからそうした賑わい創出に使えるような形での工夫というの、今、考えていますので、今は特に図書館、未来館を中心</p>

に駅前の再整備を進めていますけれども、まさに、今おっしゃったようにそれが核になって周りに波及効果が出るようにということで、商業者、地元の皆さんと共に頑張りたいというふうに思います。

中心市街地の活性化の会議もやっているんですけれども、中心市街地のための中心市街地ではなくて、やはり小牧の全体のための中心市街地ということだと思っていますので、力を入れてきました中心市街地ですけれども、これは全体の中で小牧にとって重要なポジションだというふうに思っていますので、しっかりやっていきたいと思っています。

デジタルの活用という議題なんですけれども、子供たち、まさにデジタル時代ですよね。ICT教育についても、コロナの中で本当にキャッシュレス決済についてもネットワーク、オンラインで会議だとか、いろいろな部分でこの半年間急速に進んだなという印象を多分誰でも持っていると思うので、私も今までテレビ会議なんてあまりやったことがなかったですけれども、何回もやりましたし、来週はワシントン市のグラント郡の長官ともまた、テレビ電話というかZOOMですけれども、話すことになっていますし、本当に急速に進んだなという感じがしています。

子供たちのために、これはお金かかるんですよね。本当にお金がかかるんです。うちは不交付団体なんですけれども、本当に、今後のこういったことについても国がしっかりと予算を確保してやってもらいたいなと思っていますけれども、しっかりと小牧市としても努力していきたいと思っています。

今回、先ほど座長からの質問で、このコロナの中でのということがありましたけれども、やはり、まず最初に言わなければいけないのは、学校での感染は特にはないですね。小牧においては特に学校での感染の被害というのはいないものですから、今、現状はそうなんですけれども、非常に心配されまして、当初、休校というのが長引きまして、いろいろなご意見をいただきまして、やはり諸外国に比べてこういった整備が非常に遅れているという声が非常にやはりお母さんたちから多くありました。これでタブレットを整備するんですけれども、やはり家庭環境はいろいろですし、家庭のWi-Fi環境とかそんなこともいろいろですし、ではいざああいう事態になったときに、次回はどう対応できるのかというのはまだこれからの課題ではないかなというような感じはしています。

それからデジタルの話ですけれども、まちレポこまきはあるんですけども、あれが書いてないんだよね。こまき山コンシェルジュサービスも僕は非常に大事だと思っているんですけども、特にここには報告がなかったんですけども、やはり市民の皆さん方の新しいインターフェースの中で、質問しやすく、LINE上からまた見ていただけるとコンシェルジュサービスもあって、AIを活用して質問して答えてくれるという、気軽に質問できるというのも、今、試行的にやっていますので、こういった、やはり市民の皆さん方が気軽にいつでも質問できるとかいろいろな情報にアクセスできるとか、手続きができるという、昔で言うところの電子制度ですよね、こういったデジタル化、オンライン化もしっかりと進めていく必要があるかなと、行政としては必要性を感じております。しっかりやっていきたいと思っています。

伊藤 座長

一応、教育学者としては、こまきこども未来館、とても期待しているところと、やはり一方で、ボディコンタクトだったりとかボディコミュニケーション、ボディランゲージというところが、マスクをしているものですから表情が読めない状況が続いていて、子供たちの表情の読み取りが弱くなっている

	<p>という話も最近出てきていますので、感染防止をしながら何とか、保育士さんであるとかお母さん方とちゃんと関われる。特に、スマートフォンで育児をする時代になってきていますので、これはもうそういう世代の子供たちが小学校とかに上がってきていると、今度は聴覚から情報が入らない状態になってきているらしいです。視覚情報はぱっと入るんだけど、聞き取りができない。</p> <p>学校現場は基本的には先生が音声でしゃべって、もちろん黒板も書きますし、今は電子黒板とかタッチパネルを見たりとかするんですけども、視覚情報のほうにばかり行って、聴覚、本当は人間は五感があるのもっといろいろな感覚があるわけなんですけれども、ちょっと弱っているという話もあって、心配していたんです。</p> <p>ところが、拝見したら、ボルダリングであるとかマット遊び、ボールプールであるとか、結構体を使うようなスペースもきちんと取ってあって、ああ、ちゃんとバランスの取れた施設になっているなと思って、ちょっと嬉しかったです。余分なことを申し上げました。ありがとうございます。</p> <p>それでは、議題の2ですね、「多様な人材の活躍を推進する」について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、議題の2つ目になりますので、資料2-2をご用意ください。「多様な人材の活躍を推進する」に関連する、3点、内容を紹介させていただきます。</p> <p>まず1ページ、1つ目として、こまき市民交流テラス、こちら基本目標3と4に関連したものとしての内容になります。</p> <p>こまき市民交流テラスの愛称はワクティブこまきと呼んでおりますが、こちらは小牧駅前ビルラピオ内にありまして、市民活動団体の助言、サポートのほか、市民活動、ボランティア活動、地域活動、生涯学習の情報発信や連携を図ることを目的に、本年9月にオープンしたものとなっております。</p> <p>もともとは市民会館に設置されておりました小牧市民活動センターを、機能を拡充して移転した形となっております。運営につきましては中間支援組織でありますNPO法人こまき市民活動ネットワークが行い、相談・支援事業やマッチング事業、情報提供や講座の開催などを行います。</p> <p>このこまき市民交流テラスは、ラピオ内にある、先ほどもご紹介しましたこまきこども未来館、子育て世代包括支援センター、えほん図書館、まなび創造館の5つの施設を合わせてこまき多世代交流プラザとして位置づけておりまして、世代を越えて市民がつながり支え合うことができる場としての役割も担うこととしております。</p> <p>先ほども議論にありましたように、場所は名鉄小牧駅からほど近い場所ということで、隣には来年オープン予定の新図書館、そして駅前の再整備も進めておりますので、そのあたりと一体となって、人々が行き交い交流する場として、都市機能の充実も図ってまいりたいと考えているところです。</p> <p>続きまして、2ページをお願いいたします。</p> <p>基本目標3、都市の活力と暮らしの安心に関連した事業といたしまして、高齢者がいきいきと輝くまちづくり事業についてです。</p> <p>この事業は愛知県のモデル事業に選定されておりまして、高齢者の就労・生きがいづくりを支援する関係機関が連携したワンストップ支援窓口をこまき市民交流テラスを拠点として進めようとするもので、10月1日から開始しているところです。</p>

これまでの経験を生かしたい、地域の役に立ちたいなどと考えている高齢者や就業者の方の相談を受けて、こまき市民活動ネットワーク、小牧市社会福祉協議会、シルバー人材センター、ハローワークなどの関係機関と市の関係各課が連携して運営し、多種多様な相談をワンストップで受け付ける窓口として、その人らしい生きがいくりの支援体制の強化を図ろうとするものです。

この事業の実施に当たっては、新たな生活様式を踏まえ、また団塊ジュニア世代が高齢者となり高齢者人口が最大になると言われております2040年を見据えた高齢者支援に向けた手法・支援策をさらに検討していく必要があると考えているところです。

続きまして、3ページをお願いいたします。

基本目標3、都市の活力と暮らしの安心に関連した事業といたしまして、多文化共生推進プランの策定になります。

小牧市では、冒頭、市長の挨拶にもありましたように、外国人人口の割合が高いという特徴を持っておりますので、10年前に多文化共生推進プラン第1次プランを策定し、多文化共生の推進に取り組んでまいりました。その後、外国人人口の増加や国籍の多様化などの変化がございますので、今後も引き続き多文化共生の町を目指していくために、第2次プランとして本年7月に策定をしたところであります。

体系図がついておりますが、第2次プランでは、できることを広げていこう編として、計画期間を2020年、本年から2027年度として、みんな「こまき市民」、助け合って笑顔で暮らせるまちをスローガンに、5つの基本目標、目指すことを定めているところです。

続いて、4ページをお願いいたします。

以降は、多文化共生に資する主な取組について紹介させていただきます。

まずは、ア) 外国人児童生徒教育への取組になります。

①として、プレスクール事業です。これは、母語が日本語以外の小学校就学前のお子さんを対象に、日本語の能力を伸ばし、小学校生活において円滑なコミュニケーションが図れるような援助をする事業となっております。

②です。外国につながる児童生徒や保護者を対象にした外国人生徒進路説明会で、こちらは毎年開催しているところです。

③です。小牧市の小中学校に転入もしくは編入してきた、日本語がほとんど分からない外国人の児童生徒に対しまして、一定期間集中的に学習することで、在籍する小中学校への就学が円滑に行えるようにすることを目的とした日本語初期教室、にじっこ教室と呼んでおりますが、こちらを実施しております。

④です。市内の学校を語学相談員、また日本語指導員が巡回し、児童生徒の学習補助、進路相談、通知表や保護者への連絡事項などの翻訳、保護者懇談会での通訳、こういったことを行っているところです。

そして、⑤です。親子のコミュニケーションの道具、絆となる言葉とするアイデンティティを確立するなどを目的に、日本語学習とは別に母語指導も行っております。

以上のように、小牧市では、児童生徒への支援策として、入学前から就学中の支援や進路指導、そして親子のコミュニケーションの一助になるような各種事業を行っているという状況になっております。

続きまして、5ページをお願いいたします。

	<p>5ページのイ) 外国人のための相談事業としまして、小牧市では外国人市民の生活に必要な情報を提供するため、全般的な相談を多言語で行なっております。対応言語は、ポルトガル語、スペイン語、英語であります。その他の言語につきましては自動翻訳機も導入しており、年間で1万件を超える相談実績があります。</p> <p>次に、ウ) 外国人向けバス乗り方教室、こちらを市民活動団体であります公共交通利用促進協議会が実施しております。外国人の方々にこまき巡回バスこまくるの乗り方を知ってもらうため、小牧市国際交流協会が主催する日本語教室に通う生徒の方々を対象に、毎年、外国人向けバス乗り方教室を開催しており、今年先月実施しており、40名の参加があったところです。</p> <p>続きまして、エ) 日本語教室です。小牧市在住・在勤の外国人の方への学習支援活動として、日常生活に欠かせない日本語を習得するため、1年を3期に分けて、大学非常勤講師とその養成講座の終了した講師による日本語教室を小牧市国際交流協会が開催しております。今期は100名を超える外国人の方が参加しております。</p> <p>そして、オ) 外国人のための防災教室として、こちらも小牧市国際交流協会が、市内在住・在勤・在学の小学校3年生以上の外国人の方を対象に、防災教室を開催しているところです。</p> <p>そして、カ) 災害時の外国人支援ボランティア講座として、小牧市国際交流協会が、こちらも市内在住・在勤・在学で、地域の防災に関心があり、日本語や日本語以外の言語で日常会話、コミュニケーションが取れる方を対象に養成講座、またフォローアップ研修を開催しているものです。本年度は、今月末に開催する予定をしております。</p> <p>以上のように、小牧市では、外国人市民を含めまして、子供から大人まで全ての市民が暮らしやすいまちづくりに向けた各種施策のほうを様々な主体が関わる中で行っているところとなっております。</p> <p>以上で、新たな視点2に関する事業のご紹介とさせていただきます。よろしくお祈いします。</p>
伊藤 座長	<p>はい、ありがとうございます。議題の2「多様な人材の活躍を推進する」で、高齢者活躍、多文化共生について小牧市の取組を説明いただきました。ご意見、ご質問があれば発言をお願いいたします。</p> <p>水野委員、いかがですか。</p>
水野 委員	<p>では、4ページのア) 外国人児童生徒教育への取組の1のプレスクール事業について質問させていただきます。</p> <p>この事業自体は非常に重要な取組だと思っております。そこで、まず、この対象者をどのように把握してアプローチをしているのか、そして、対象者のうちここに参加する子供は何パーセントぐらいなのか。また、小学校への申し送り等はしているのかということについてお伺いします。</p> <p>ここできちんと把握をして小学校につないでいく、他市では、もっと踏み込んでいろいろな困難を抱えているであろう家庭等をピックアップして情報の共有を、行政と学校、地域のNPOなども含めて情報を共有してサポートしていくような仕組みを持っているところもあります。このプレスクールというのはどこら辺までそれがなされているのかということについて、お伺いいたします。</p>
まち・ひと・しごと創生推進委員会	<p>こども未来部次長の櫻井です。よろしくお祈いします。</p> <p>まず、プレスクール事業につきましては、平成22年度から小牧市国際交流協</p>

櫻井次長	<p>会が行っている事業となっております。そのため、私からはこども未来部所管分について説明をさせていただきます。</p> <p>この対象者につきましては、公立、私立の保育園、幼稚園に在園している外国籍の方を全て対象としております。国際交流協会からこの事業の参加申込書を受けとりまして、園から事業参加申込書を保護者の方に配布させていただいております。日頃の園での行動を参考にしながら、保護者と相談しながらこの事業の参加について申込みを行っております。</p> <p>対象者及び参加者につきましては、平成30年度につきましては対象者が96人、そのうち参加者が64人で66.7%、令和元年度は対象者が92人、参加者が42人で45.6%。今年度になります、令和2年度につきましては、対象者が97人、参加者が58人で59.8%というふうに国際交流協会から聞いております。私からは以上となります。よろしくお願いいたします。</p>
水野委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>そこその数字なのかなと思う一方で、保育園とか幼稚園につながっている子供たちはいいのですが、もっと深刻なのは保育園や幼稚園に行っていない子供たちでして、そこが今回はタッチしていないというのがまず分かりました。</p>
まち・ひと・しごと創生推進委員会 櫻井次長	<p>その部分は教育委員会の管轄になります。</p>
水野委員	<p>そうですか。大変失礼しました。</p> <p>その点について教えていただきたいのと、プレスクールがどのぐらいの頻度行われているのか、そして、その情報をどれくらい小学校につながっているのかという点についても併せてお願いします。</p>
まち・ひと・しごと創生推進委員会 石川次長	<p>教育委員会事務局の次長の石川でございます。</p> <p>頻度につきましては、1月から3月の間に、週1回程度で合計12回開催されているということでございます。</p> <p>委員からお話もありましたが、しっかり小学校のほうに申し送りができるのかというご指摘でございますけれども、プレスクールに参加した園児につきまして、プレスクール終了後に一人一人の事業報告書が作成されます。その事業報告書には、ひらがなや数字の読み書き、また、プレスクールでの学習態度についても記載がされております。就学する小学校へそれが提出されますので、その学校でその事業報告書を参考に学習指導を行っているという状況でございます。</p> <p>そして、もう1点の保育園、幼稚園に通っていないお子様なんですけれども、プレスクール参加申込書を、各小学校の、この秋に開催する就学説明会においても配布しておりますので、保育園や幼稚園に在園していない場合でも皆さんに情報が届くようになっております。</p> <p>以上です。</p>
水野委員	<p>ありがとうございました。安心しました。</p>
伊藤座長	<p>私のほうから、ちょっと戻って、②の高齢者がいきいきと輝くまちづくりについて、社会福祉協議会に関わっておられる田中委員、何か。</p>
田中委員	<p>高齢者の生きがい作りというところでいきますと、今まで、私どもは地域で関わらせていただいていますと、福祉というところの分野だけで高齢者の居場所作りだとかというものに関わってきましたが、こういった形でテラスの中で就労ですとか役割作りだとか、生涯学習だとか、そういった機関が集ま</p>

	<p>っていろいろこれから検討していけるということは、本当に幅広い意味で高齢者の生きがいにタッチできるのかなというふうに思っています。</p> <p>ですので、その中でも、福祉という分野の中ではありますけれども、もう少し視野を広げながら、関わり合いながらこういった事業を進めさせていただくのに、私どもに役割を持たせていただくとありがたいなというふうに思っています。</p> <p>以上です。</p>
伊藤座長	<p>ありがとうございました。</p>
山下市長	<p>このこまき市民交流テラス「ワクティブこまき」ですけれども、これは非常に、私は就任以来高い関心を持って、こういうところが必要だと目指してきたことの1つなんですよね。</p> <p>やはり、高齢化の中での高齢者、人生100年時代という中で、ずっと続けて仕事をされる方も見えるでしょうし、第2の人生というようなときに、結構、男性なんかは特に地域につながりがなくて、帰ってきてもなかなか会社から地域へ受渡しができないみたいなのところもあるし、それから、よく聞くのが、暇だけれども、何か地域に貢献したいけれども、何をやっていいかわからないというような声もずっと前から聞いているんですよね。これは女性もそうですし男性もそうなんですけれども。</p> <p>こういう中で、イメージとしては、やはり就業についてはハローワークみたいなところがあるんですけども、仕事だけではなくて、社会貢献だとか地域活動だとか市民活動だとかNPOだとか、ボランティアだとか、あるいは趣味だとかいろいろな部分で、やはり気軽に相談できるワンストップが必要だなということもずっと思ってきたということ。それからその市民活動も、市民活動センターは前に市民会館にあったんですけども、場所が悪いので、なかなかふらっと寄れないので、もう少しより安いところに出なければいけないということもあって、ラピオの改修の中で、ここに出てきてほしいなということで、これも実現させていただいた。</p> <p>実は、市民活動をやっている人たちというのは一定の方々が結構複数重複してやっていて、なかなか広がっていかないというのが、どこの町でもそうですかね、結構そういう傾向があるんです。でも、もっと裾野を広げたいということがあって、やはり気軽に立ち寄れるとか相談できるというのもそうだし、もう1つ、やはり人材育成が非常に重要だということもずっと議論があって、小牧市は、生涯学習計画を作る中で、生涯学習、趣味だとか習い事を、楽しみながらというところの枠を超えて、やはりそこを、非常にハードルが低いところをファーストステップにしながら、次のステップに行きやすい、行ってもらえるように、やはり個人の学びをただの趣味とか個人でとどめずに、それを誰かに伝えたり教えたり、あるいは地域に還元したりという、実際に活動をしたりというようなことで、ボランティアだとか社会貢献、地域活動、市民活動につなげていくというようなことを、やはり一緒にやらなければいけないねというのがあって、市民活動センター、今までは実は生涯学習は扱っていなかったんですけども、小牧もいろいろな講座をやっているんで、生涯学習をここの窓口を持ってきたというのが、実は非常に大きなポイントなんですよね。</p> <p>だから、駅前に拠点しながら、今まで市民活動の拠点であったところがここに移転したんですが、市民活動だけではなくて、生涯学習とかもろもろの、様々な活動をここで、どんなものがあるのかということも知ってもらって踏み</p>

	<p>出せるみたいなの、こういうワンストップの窓口をとということで、これからのまちづくりに非常に大事だと思っています。そんな思いを市民にしっかり発信しながら、ここをよく活用いただけるようにしたいなど。</p> <p>今の社会福祉協議会だとか、市民活動のいろいろな部分でこことつながってもらって、一緒になってやっていけるような形にしていきたいなということを思っています。</p> <p>少し補足をさせていただきました。</p>
伊藤座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほか、意見、いかがでしょうか。そろそろ時間も迫っているんですけども、アドバイザーからどうぞ。</p>
西村地方創生アドバイザー	<p>この2ページのよろず支援拠点、市長のおっしゃるとおりでして、そういった問題意識でやっているのは素晴らしいなと思いました。</p> <p>1点だけ。オープンデータの活用とか、そういったときに、こことはちょっと対象者がかぶらないんですけども、そういう若い方が職員でこのよろず支援拠点に、そういう、おじいちゃんとか誰かが言ったことに対して、ああ、データでこういうことがありますよとか、そういうオープンデータの要素を少しずつ入れていくと回るかなと。より回るし、すごく先進的な感じになって、感動するなと思いました。それが1点です。</p> <p>もう1点が、簡単に話します。4ページと5ページを見ていて思うのは、さっき、防災ガイドブックをホームページから見ていたんですけども、QRコードが欲しいなという。QRコードがないと外国人にとっては何のこともわからないし、すごく遠いんですよ。そういうところがあるので、QRコードがあった方がいいのかなというのを思いました。それだけです。</p> <p>さっき、防災危機管理課で小牧市防災ガイドブックをもらってぱらぱらと見ていたんですけども、あれ、外国人はどうするんだろうなというをちょっと今、思ったので、その辺の配慮を、つまりQRコードでやると、多分QRコードだったら何回もぴっとやるから慣れさえすればわかるし、何か、そこがあるといいかなと。</p> <p>防災、そんなにハザードマップを見る必要もないぐらい、そんなに内水氾濫ないなど、ああこの町はいいねというぐらいですけども、やはり外国人にとってみれば、災害って、地震だけでもみんな、我々よりもわあわあとなるわけじゃないですか。だから、そういう意味で配慮していただけると、このいい動きがすごく回るのではないかと思います。すみません、長くなりました。</p>
伊藤座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほか、いかがでしょう。市長、今のはよろしいですか。</p>
山下市長	<p>外国人との共生対策は、一生懸命やってはいるんですけども、正直、まだまだじゃないかなと思いますね。これは我が町だけなのか、そうではないと思うんですけども、正直言って手応えがない。一生懸命やっても、なかなかこれは正直言って難しいです。何と言ったらいいんですかね。</p> <p>日本人市民と外国籍の市民とがいるんですけども、やはり、まず言語が違う。言語が違うとコミュニティが違うんですよ。どうしても分かれてしまうんです。アクセスがしっかりできているのかできていないのか、本当に情報が届いているのか届いていないのか、難しいなど。</p> <p>うちに住んでいる市民にも、日本人市民にも、市のいろいろな情報が届いているか届いていないのかというのは難しいんですよ、正直言って。本当に難</p>

	<p>しいんですね。私も、こういう行政にかかわる仕事をしなくて、例えば同年代で名古屋とかほかに勤めて家庭に帰ってきて、また朝出勤してとやっていたら、では、そんなに行政の情報に関心を持ってちゃんとフォローできるかといったら、そういう人ばかりではないなというのはやはり実感として分かりますからね。普通に暮らしていて、そこまで関係ない話はやはり最後は関係ないという人が多いのかなと思います。</p> <p>日本人ですらそうなのに、これはうちにとっても課題なんですけれども、日本人でも、やはり届けたいにも関わらずなかなか届かない。ましてや外国人はそういうところが輪をかけてあって、届いているかどうかというのはチェックできない、できていない。</p> <p>正直難しいなと思います。</p>
水野委員	<p>それぞれの言語のコミュニティの中心の人たちとうまくつながって情報交換を市でもされると、ある程度把握できるのかなと思うんですけれども、そういう機会はあるのですか。</p>
山下市長	<p>以前から、そういう話を伺いながらおっしゃることはよくわかるんですが、仕組みとしてこれは回っているのかな。実際、担当レベルでどうなの。私が直接やり取りすることはないですね。そういう機会はないです。実際に、例えばポルトガル語グループとか、ブラジルとかの中心、あるいはスペイン語グループとか、フィリピン、タガログ語、中国語、いろいろあると思うけど、どうなんですか。</p> <p>今おっしゃるように、確かに、発信力のある中心的なコミュニティの、そこから行けば情報が拡散してまた広げられるみたいな。やれてる。</p>
まち・ひと・しごと 創生推進委員会 林次長	<p>市民生活部次長の林です。よろしく申し上げます。</p> <p>多文化共生推進室の窓口、外国人相談をやっていますので、そこにポルトガル語、スペイン語、英語で相談にお見えになって、いろいろな言語でお話しますが、そのグループ単位でのお話をするということは、今はちょっとつながりがないという状況でございます。</p> <p>以上です。</p>
山下市長	<p>先生、これって、うちは8,000人いるんですよ。一番ポルトガル語人口が多いんですけども、全部つながっていますかね。というのは、今の話、職場単位とか、今は家族が大きいし、グループはいっぱいあると思うんですけれども、やはり、小牧なら小牧でつながりとかって、かなり濃厚にあるんですかね。どういうふうなんでしょうね。</p>
水野委員	<p>すみません、私も小牧の状況はよくわからないのですが、それなりに緩いつながりはあると思います。今はオンラインでいろいろつながれるわけですから、緩い繋がりであっても、ちょっとした情報も含めいろいろな情報が伝わっていくことで住む上でも安心感につながっていくと思います。そういう人たちと、どんな形でも情報交換の場、対話の場が設けられたら、実態を把握しやすいと思います。</p>
山下市長	<p>よく考えるのは、雇用企業に協力いただいて、やはり情報をしっかりと下ろしていくということなんかを考えて動いたりもするんですけれども、そうですね。もう少し、誰が中核かは多分わからないんですよ。</p> <p>いろいろと、例えばうちが雇用している、もちろん、母国語の方だとかいろいろつながりはあるんですけれども、もう少し、今の、おっしゃることはよくわかるので、機会をもう少し持っているいろいろな人と話をしていけばつながっていくのかな。もう少しそれをやったほうがいいかもしれませんね、今</p>

	<p>おっしゃるようにね。</p> <p>うちはもともと非常に外国人が多いので、いろいろと研究しながら先進的にやってきているというような自負がありますけれども、正直、私のイメージしている多文化共生の中で、もっと近くてもいいかなというのがあって申し上げているんですけれども、例えば、いろいろなお祭りでもイベント、行事でも、もっと近くてもいいかなというようなこともイメージとしてはある。</p> <p>だって、今は6%ぐらいからな。15万人都市で8,000人を超える方々が見えるので、もっと市民、日本人と溶け合ってもいいのかなという感じがあるんです。ただ、現実はまだ分かれている、コミュニティが分かれているという状況がある。その中での難しさがあるということで、だから、今の話、把握したりとか情報発信をしたりとかいうときに、そういった影響力のある人とつながって、これはもっと努力したいというふうに思いますが、一方で、分かっているのでもいいのかどうか、ちょっと上手にあげるといいのかなという、これはある意味私の理想的な部分ですけれども、そんな思いも持ちながら、今、これはもう少しいろいろと努力が必要かなと思います。</p>
水野委員	<p>例えば、何かのイベントの機会であうとか、それぞれの民族の人たちのお祭りとか、サークルとか、そういうところへ出かけて行ってお話すると糸口はつかめると思います。ちょっと踏み出してみたいかでしょうか。</p>
伊藤座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、時間も参りましたので、本日の議題、新たに追加した2つの横断的視点に関連する小牧の取組について、本日の議事は全て終了とさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>本日はお忙しい中、長時間にわたりまして、また多くの貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>本日の会議内容につきましては、事務局でとりまとめまして、委員の皆様にご報告させていただいた後、市のホームページで公開させていただきます。</p> <p>いただきましたご意見は、本市の地方創生への取組へ反映できるよう検討させていただきます。</p> <p>今後とも、皆様にご協力いただき、本市の地方創生の充実・強化に向け、取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>